



2月号
発行

大沢ふれあいのまちづくり
協議会広報部会

<http://www.ozo.jp>

神戸らしい眺望一〇選に

光山寺

神戸は、海あり山あり、そしてにぎやかな市街地や豊かな田園地帯も存在し、実に変化にとんだまちであります。平成十九年八月『神戸らしい眺望景観』の募集があり、百六十二件の応募がありました。そして都市景観審議会の審査の結果、北区で唯一、光山寺が一〇選に選定されました。選定された眺望景観は、二月からホームページに掲載されると共に四月ごろにさんちか通路にパネルで展示される予定です。

今や、大沢の光山寺から神戸の光山寺となってまいりました。今回の選定を機に、更に整備を進め環境を整えることにより、大沢町の皆さんはもちろん、多くの市民

光山寺より眺む270度のパノラマ



に愛され親しまれる場になっていくことを願っております。

(下坂 正博)

コンパクトタウン研究会部会長会

コンパクトタウン研究会の部会長会が余寒なお厳しい二月十三日、北区役所や関西学院大学加藤教授の出席を得、町内からは自治連合会や婦人会の会長様や役員の方々に各部からの有志も交えて平成十九年度の締めくくりの会として開かれました。

最初は、各部会からの取り組み状況と課題について報告があり、活動報告については、その都度光山山だよりでお知らせしておりますので、今後の課題について記述しますと、「まちづくり部会」

は、ポイントラリー帳の再検討やまちづくり拠点、情報発信・情報収集拠点の開設に向けて進めていく。「農業活性化部

会」は、第六期を迎えた今年の塾運営に新たな挑戦をし、卒業生による講師、休耕田のオーナー制度などや、FFPとの協力で地産・地消に取り組む。「田園都市構想

研究会」では、基礎工事費に一億円の負担が必要なこと、大沢町全体の事業であるとの認識がなされていない点が課題。「子供に関する委員会」は、まちの人口増の一つとして開発許可の規制緩和策について学習・協議。今後も出前トークなどの活用を考えている。「交通部会」は、アンケートの結果が判明。これをもとに神姫バス等に運行時間帯の変更や路線延長などの要望をする。FFPや、らぽーと、などへの協力依頼もする。大沢町内での自主運行組織の立ち上げも視野に入れる。

加藤関学大教授からは、大沢の課題は、今、日本全国で問題となっている課題である。解決すべきものとして今後も意識し取り組んでいかなければならない。まだ大沢は恵まれている。北区役所より、点から線への繋がりができてきている。今、何が大切であるかを考えて小さなことでも積み上げていきたい。区役所も応援していきたいという力強い励ましがありませんでした。

(和田 耕次)

もっときれいな大沢町に！
大沢小学校のクリーン作戦

二期期に引き続き、三月四日（火）午後一時四十分頃から三十分程度、地域（通学路）に出かけてクリーン作戦を展開します。地域の皆様も、お近くの通学路で、子どもたちと共に大沢町をきれいに行ませんか。

地域福祉センター

改装工事はじまる

大沢町民の悲願であった地域福祉センターの改装工事がいよいよ二月二十日からスタートし、完成は三月下旬の予定です。これまでもお知らせしましたが、「県民交流広場事業」の助成に基づいて施設整備を行うのですが、整備後は地域の特色を生かした活動の展開が期待されています。

平成二十年度からは ①ふれあい昼食会、②やまびこ茶屋（ふれあい喫茶）、③おばあちゃんによる料理教室、④パソコン教室

以上の四事業の充実を図るため向こう五ヶ年計画で取り組んでまいります。特に高齢者の見守り・生きがい対策をはじめ町民同士の、また都市と農村の人々との交流を推進したいと願っています。どうか町民皆様の暖かいご支援、ご協力をよろしく願います。

（東本 暁）

農業活性化部会より

農業活性化部会の活動は、これまで「農業塾」の運営が中心でした。本年度は二月二十三日に修了式を行い、四月には第六期の塾生を迎えることとなります。募集の内容は三月に発表します。

さて来年度は「農業塾」以外の活動として、フルーツ・フラワーパークと連携して地元の農産物を有効に活用する方法を研究したいと思っています。すでに「大沢町・FFP地産地消協議会」を立ち上げこれまでに二回会合を持ちました。

町内で手に入る、たけのこ、里芋、しいたけ、黒豆などを使った

昔から伝わる料理方法や新しいメニューを考えパークのお客さんに提供できるようにがんばります。

（藤本 喜郎）

少年野球

少年野球部は今年、三年生一人、一年生一人の即(?)戦力を迎えて新しいスタートを切りました。一時はチーム存続が危ぶまれましたが、メンバーの熱意と、ご父兄の方々のご理解・ご協力によって、大沢単独でチームの編成が出来る事を、うれしく思っています。私は練習の前に、子供たち一人ひとりにその日の目標を立て、それを実践するようにアドバイスをしています。『声を出す』、『チームプレーを心がける』等、全員が目的意識を持って練習に参加することで、活力のあるチームが出来る

と考えるからです。四月にはいよいよリーグ戦も始まります。ユニフォーム姿の子供たちを見られたら、是非『今日はどうやった?』と声をかけてやってください。

（東本 雅道）

綱引きの町「大沢」を語り継ぐ
「しろんと綱引き大会」開催!

「大沢ヨタローズ」「大沢あゆみ会」が綱引きブームの引き金となり、全国に名を轟かせて早や十数年、「大沢の綱引き」を「いつまでも」と始めた「しろんと綱引き大会」も今回で九回目を迎えます。

近隣地域、町内から元気一杯の選手の参加を得て、来る三月二日（日）十時より大沢校体育館で開催します。

今回は、会場内に大沢綱引きチームの活躍記録や数々のトロフィー等を展示し、熱き思い出を語りあつて頂こうと企画しています。そして、好評の「市原そば」「善入レンタの餅つき」「婦人会のたこ焼」で舌鼓を打ちながら、体育館内の熱戦に、町内からも多数の声援を頂き、大会を盛り上げ『大沢の綱引き』が語り継がれる大会になればと、願っております。ご来場・ご観戦をお待ちしております。

（東岡 威和雄）

大沢の野菜は
つまみ！

『食の安全』が問われる時代になり、最近では再び地産地消が見直されています。店頭でも輸入野菜は敬遠される傾向になり、地場野菜の人気が高まっているそうです。その土地でとれたものは、何とも味わい深いおいしさと安心感があります。らぽーとでも、和田さんのご厚意で畑を提供していただいております。瀧脇さんご夫婦の手により野菜が作られています。利用者の方々は、ここの畑でとれたというだけで、それがひとつの調味料となり、「おいしいね」とおっしゃいます。

私たちは自分の口に入るものは、産地のはっきりしたものの・信用の出来るものをきちんと自分の目で見極めなければならぬのです。そして、自分で調理することが、食の安全を守る重要な手立てに他ならないのです。幸いなことに、大沢では豊かな畑でたくさん野菜がとれます。これらの味を

次世代へ継承されていくことを願ってやみません。

(らぽーと 栄養士 前田)

スタートから一年

ふれあい喫茶

「毎月みんな来て下さるかな。」と心配していましたが、もうすぐ一年になるうとして現在の、大勢の方が月一回の『ふれあい喫茶』を楽しみに待っていて下さるようになりました。



各地区の公会堂、公民館の昼下

がりのひととき、色とりどりの野の花や庭の花がテーブルに飾られ部屋はなごやかな雰囲気。軽い体操をしたり、時にはゲームやお話、昔なつかしい童謡を歌ったりもしますが、一番楽しみにしておられるのはおしゃべり。笑い声が弾みます。お茶を

飲み、お菓子をいただきながら…。誕生月の方には、パッピーバースデイを歌い、ささやかなプレゼントを渡すという試みも始めました。

地域に支え合う仲間がいる。いやなこと悲しいことも癒されるそんなふれあい喫茶であつたらと思えます。これから花の季節。お花見をかねての会もよし。各地域とも男性が少ないのももう少しふえたらいいなと思っています。

これからもみんなに愛される『ふれあい喫茶』であることを願いがんばっていきたく思います。

(山田 三恵子)

おあそびの
いちご

自慢

今年は、大変寒い冬が続いております。冬らしい冬とも言っております。私共いちご栽培者にとりましては、温度管理や肥培管理に大変苦慮しているところです。促成栽培をされている方は、もう大きく赤くなつたいちごを出荷

されております。促成栽培、半促成栽培、短期冷株栽培、露地栽培等、その目的によって栽培方法が異なります。また、その栽培方法にあつた品種も多種多様で、代表的な 章姫、べにほっぺ、さちのか、宝交早生等 味、香りが微妙に異なり、その特性を味わうことができません。

大沢のいちごは有野の二郎いちごにひけをとりません。今 栽培農家は九戸ですが、面積も増え、次郎ヶ谷では特区の方も二名部会に入つていただきました。

いちご狩りもこの三月二十日にオープンし、お客様のお越しをお待ちしております。今年からは、予約制にしておりますのでぜひ、予約されておしいちごを御賞味ください。部会員揃つてお待ちしております。(小西 篤信)

【いちご生産者】

敬称略

- 藤本 耕司 大家 康弘
- 上田 隆 大家喜八郎
- 前中 悠一 小西 篤信
- 池本 喜和 森 邦寿
- (陶山 正勝 久保 京子)

